

外国語科目群

初修外国語

卒業に必要な初修外国語の単位規定や予備登録規定などについては、「全学共通科目履修の手引き」（本冊子）を参照して下さい。また成績評価の詳しい基準は各科目ごとに授業中に指示します。

ドイツ語 – German –

ドイツ語は、ドイツはもちろん、オーストリアやスイスをはじめとした6カ国以上で公用語とされている、ヨーロッパを代表する言語の一つです。広い地域で母語として話される生きた言語であると同時に、多くの非母語話者によって習得が目指される主要な言語でもあります。学問をするためにも必須の言語で、哲学をはじめとした人文学や、社会科学分野には多くのドイツ語古典がある他、現在でも重要な研究文献がしばしばドイツ語で書かれています。このように、ドイツ語で書かれた文献を読むことができれば、研究に多に活用できるのはもちろん、さらにはドイツ語圏の歴史や文化、思考法を深く理解することもできます（そしてドイツ語圏の文化は、いわゆるドイツ人だけでなく、例えばユダヤ系のルーツを持つ人々によって紡がれてきたものであります）。

とはいえ、ドイツ語は大部分の学生にとって、初めて学ぶ外国語であろうと思います。そのため初級ドイツ語の授業は、ドイツ語の文字を正しく発音することに始まります。1 回生向けの初級ドイツ語は「文法」と「演習」からなり、それぞれが相互に補いながら、内容的にも構文的にもあまり複雑でない文章を読み書きする能力、またドイツ語を用いて簡単な会話ができる程度の力を養います。2 回生以上向けの「中級ドイツ語」では、初級ドイツ語の知識を前提に、内容的にも幾分深みのあるドイツ語文を読み書きし、多少複雑な構文を正確に理解する能力を身につけることを目標にしています。中級のテキストは文学作品や哲学・思想的著作をはじめ、時事問題に関する評論など、できるだけ多様なものを提供し、学生の関心に応えられるようにしています。

また、ドイツ語の会話力をさらに高め、種々のテーマに関してドイツ語で専門的な発表が行えるように、会話・ライティングのクラスも開講されています。さらに、もっと集中的にドイツ語を学びたい人のために「6H コース」（週3回の授業）や、高度なドイツ語能力を身につけたい人たちのために「上級ドイツ語」も設けられています。詳しくはシラバスの説明を読んで選んでください。

◆全回生対象（初級） ※再履修者クラスを含みます

ドイツ語 I A・B（文法）

ドイツ語 I A・B（演習）

ドイツ語 I（6H コース）

◆学部2回生以上対象（中・上級）

ドイツ語 II A・B

ドイツ語 II A・B（会話）

ドイツ語 II A・B（CALL）

ドイツ語 II A・B（ライティング）

ドイツ語 II（6H コース）

ドイツ語 III A・B